

すぎなみ151便り

# おとなりさん

2009年

あなたは わたしの おとなりさん  
わたしは あなたの おとなりさん  
あなたの とわりは  
暮らしやすいなあ

11月号



---

## 目 次

1. 【10月の主な出来事】
  2. 【10月の主な出来事より】
  3. 【10月のメンバー・ミーティング】
  4. 【今月の「駄洒落クイズ」】
  5. 【エロジ「心の詩」】
  6. 【さんぼみち】
  7. 【シリーズ 幻聴】
  8. 【ホーム・ページ開設のお知らせ】
  9. 【一美の密室】
  10. 【今月の4コマ漫画】
  11. 【我ら西永福妄想族】
  12. 【ヨッチン文学】
  13. 【テルーの法則】
  14. 【茨城県のとある患者会の悩み】
  15. 【「すぎなみ 1 5 1」スタイル】
  16. 【花笠祭「えび丸くん」出店のご案内】
  17. 【最近の「すぎなみ 1 5 1」の様子】
  18. 【12月の予定】
-

## 1. 【10月の主な出来事】

10月14日(水) ソフト・バレーボール合同練習 @中部センター体育館

10月20日(火) はとバス・ツアー

10月25日(日) 「えび丸くん」出店 @松原教会バザー

## 2. 【10月の主な出来事より】



# はとバス・ツアー



2009年10月20日、はとバス・ツアーで浅草辺りに行ってまいりました。  
参加者の感想を掲載いたします。

水上バスでは、波が荒くてなかなか出発できなかったの。

お陰で、マンゴー・ジュースが飲めて、これがとってもおいしかったわ。

水上バスに乗ったら、地下で食料を売っていたので、「かっぱえびせん」を買って皆で食べて、すっかり安心して、転覆の心配もなく、無事に浅草に到着できて良かったです。

浅草寺では、時間が無くて、全部欲しかったけど、買えなくてがっかりしちゃったわ。だけど、菊の展示会を見ることができて満足でした。



中西ひろみ

## 『東京見物記』

151主催の東京見物に行った。

最初は馬鹿にしていたが、行ってみると知らない所があった。

特に、水上バスは学生時代、写真部で撮影会をやったことを思い出した。

仲見世通りは久しぶりに行ったのでめずらしかった。

安藤和雄

~~~~~ 秘 話 ~~~~~



浅草で小走りにトイレに向かってゆく安藤さんの後姿を見た。

片手には、浅草で買ったお土産の袋を提げていた。

トイレから出てきたその顔は安心感で一杯だった。

でも、何か足りないような気がした。片手に提げていたお土産の袋がないようだった。

心配性の私は、他人事ながら「安藤さん、さっき手にお土産の袋提げてなかった？」と訊いてみた。

瞬間「あっ！」と目を丸くして驚きの声を漏らしたかと思ったら、全速力でトイレに向かって走っていった。

また戻って来たとき、安藤さんの顔は、さっきにも増して安心しきった表情と照れ笑いで一杯になっていた。

Mr.Y

## 『2度目の、はとバス・ツアー・・・』

私にとっては2度目の「はとバス・ツアー」だった。  
 な～んにも変わったことはなかった。  
 な～んにも印象的なことはなかった。  
 な～んにも美味しい食べ物はなかった。  
 でも、たまには出かけるのもいいもんだ。  
 帰るのが遅かったから疲れたよ。

H. Yokoi



空飛ぶウンコ

空飛ぶ金のウンコ

空飛ぶでっかいウンコ

ここんとこオレは便秘気味だ

空飛ぶいやみなウンコ

オレは少し疲れて家に帰った

寝る前に出た

でっかいウンコ

空飛ぶ金のウンコと同じ形

杉並の夜空に飛んで

消えていった

あ～、やっぱりあれは

オレの金のウンコだったんだ

影の男

### 3. 【10月のメンバー・ミーティング】

10月13日(火)

1) 「10月の行事「はとバス・ツアー」について」

〔お知らせ〕

幹事より：

10月の行事は「はとバス・ツアー」で、日程は10月20日(火)です。

当日は10:00に「すぎなみ151」に集合し、10:30に出発します。

「はとバス」は東京駅が発着場所です。「すぎなみ151」から東京駅まで電車で移動し、東京駅周辺で各自昼食をとり、13:40に再集合します。

バスの中では煙草は吸えません。バスは他のお客さんと乗り合いになりますので、他のお客さんに迷惑にならないようにお願いします。

2) 「ソフト・バレーボール合同練習について」

〔お知らせ〕

キャプテンより：

世田谷区の「風の谷プロジェクト」さんから、ソフト・バレーボール合同練習のお誘いが来ています。日程は10月26日(月)14:00から16:00です。

3) 「傘について」

〔お願い〕

気になっている人より：

置き傘はしないで、持ち帰るようにしてください。

4) 「松原教会バザーへの「えび丸くん」出店について」

〔お知らせ〕

職員より：

今年も、松原教会バザーに「えび丸くん」を出店します。

当日の大まかなスケジュールは次のとおりです。

8:00～ 「すぎなみ151」で材料の下準備をします。

9:00～ 「すぎなみ151」を出発

9:15～ 現地での準備

10:00～ 開店

14:30～ 閉店と片付け

当日8:00からの準備の手伝いをしてくださる方がいればお願いします。

シフト表を作って貼ってありますので、参加する方は参加できる時間帯のところに名前を書いておいてください。

#### 5) 「ホーム・ページの開設について」

〔お知らせ〕

職員より：

法人の設立に伴って、簡単なものですが法人のホーム・ページを開設しました。

URLは共用パソコンの机に貼っておきました。

そのホームページに「すぎなみ151」のページも作ってあります。

「おとなりさん」のバックナンバーも見られるようにしました。

「一般社団法人クレオソーレ」のホーム・ページ URL

<http://www.creosore.or.jp/>

「すぎなみ151」のページ URL

[http://www.creosore.or.jp/suginami151/suginami151\\_top.html](http://www.creosore.or.jp/suginami151/suginami151_top.html)

#### 6) 「野口体操へのお誘い」

〔お知らせ〕

職員より：

「とうきょう会議」中部ブロックで、11月4日(水)14:00~16:00中部センターの体育館で「野口体操」の先生をお呼びして「野口体操」を体験する企画をしています。

是非ご参加ください。

#### 7) 「郵便局の年末年始アルバイトについて」

〔お知らせ〕

職員より：

杉並南郵便局から年末年始のアルバイトの募集案内が来ています。ご興味があるかたは声を掛けてください。

### 10月21日(水)

#### 1) 「ソフト・バレーボールの練習について」

〔お知らせ〕

キャプテンより：

10月23日(金)荻窪体育館でソフト・バレーボール練習のお誘いが来ています。参加希望者は行きましょう。15:00~17:00です。

## 2) 「ペットボトルを捨てに行くことについて」

〔お願い〕

気になっている人より：

空いたペットボトルは、気が付いた人がサミットのペットボトル回収機に捨てに行っていますが、いつも同じ人が言っているようです。ペットボトル入りの飲み物を飲む人は多いのですから、廃棄ペットボトル入れのバッグに溜まったら、気が付いた人は捨てに行ってください。

## 3) 「廃棄ペットボトル入れ用バッグについて」

〔相談〕

気になっている人より：

廃棄ペットボトルを入れるバッグがボロボロになってきました。買い換えたほうがいいと思います。

〔検討結果〕

買い換えることになりました。Mさんが担当することになりました。

## 4) 「はとバス・ツアーの報告について」

〔報告〕

幹事より：

昨日11月20日、行事で「はとバス・ツアー」に行きました。  
事故もなく、けがもなく、無事に済んでよかったです。

参加者より：

幹事のMさん、お疲れ様でした。

## 4) 「今週の予定について」

〔相談〕

職員より：

10月25日(日)が松原教会バザーで「えび丸くん」の出店をします。

「えび丸くん」の材料買出し、23日午後のソフト・バレーボール練習、公園清掃、ビル全体清掃など、予定が盛りだくさんなので、次のように調整したいと考えていますがいかがでしょうか。昼食作りをどうするかについても決めてください。

22日(木) 午後に予定されていたビル全体清掃を午前中に変更

23日(金) に予定されていた公園清掃を22日(木)に変更

23日(金) 午前中に「えび丸くん」の材料買出しと準備

23日(金) 午後、荻窪体育館でソフト・バレーボールの練習

〔結果〕

スケジュール調整は上記の通りで決まりました。

忙しくなりそうなので、22日(木)と23日(金)の昼食作りはやらないことになりました。



## 5) 「松原教会バザー「えび丸くん」の出店について」

〔お知らせ〕

職員より：

10月25日(日) 松原教会バザーで「えび丸くん」を出店します。

下準備から参加される方は8:00に「すぎなみ151」に集まってください。

現地集合で開店前の準備から参加される方は9:30に松原教会に集合してください。

## 6) 「新型インフルエンザについて」

〔お願い〕

職員より：

インフルエンザの診断を受けた方は自宅療養してインフルエンザにかかった旨電話連絡をいただけるようお願いいたします。

## 7) 「中部センターでのソフト・バレーボール合同練習について」

〔お知らせ〕

キャプテンより：

次回の中部センターでのソフト・バレーボール合同練習は、11月4日(水)10:00~12:00です。現地集合でお願いします。

ソフト・バレーボール合同練習の後、同じ場所で14:00~16:00「野口体操」があるそうです。希望者はどうぞ。

## 10月27日(火)

## 1) 「玄関のサンダルについて」

〔お願い〕

気が付いた人より：

玄関のサンダルはトイレに行く人用に限定することになっているので、このサンダルを履いて買物にいったり、ビル清掃をしたりしないようにお願いします。

使った人は、揃えておくようにしましょう。

## 2) 「宮坂体育館でのソフト・バレーボール合同練習について」

〔問題提起〕

キャプテンより：

11月12日(木)世田谷区の「風の谷プロジェクト」からのお誘いで宮坂体育館でのソフト・バレーボール合同練習に行きます。13:00に出発します。練習は14:00~16:00です。

参加希望者は一覧表に名前を書いておいてください。

ソフト・バレーボール大会は競技部門に参加することになっていますが、必ずメンバーで女子

を1人入れなければなりません。「すぎなみ151」で出場予定だった女子が体調不良で出られないかもしれないそうです。実行委員会に確認したら、他のチームから選手を借りてもよいということなので、色々なチームにお願いしてみようと思います。

### 3)「松原教会バザー「えび丸くん」について」

〔報告〕

職員より：

10月25日(日) 松原教会バザーで「えび丸くん」を出店しました。  
結果は次のとおりです。

販売個数 = 約85食

|      |                         |        |
|------|-------------------------|--------|
| 収入の部 |                         |        |
|      | 売上高                     | 25,600 |
|      | 小計                      | 25,600 |
| 支出の部 |                         |        |
|      | 材料費                     | 13,260 |
|      | 教会への寄付                  | 2,600  |
|      | 小計                      | 15,860 |
| 粗利   |                         | 9,740  |
|      | 参加者への分配金<br>(47単位×200円) | 9,400  |
| 残金   |                         | 340    |

### 4)「12月の行事について」

〔選定〕

12月の行事は、クリスマス会になりました。  
幹事はFさん。他にも幹事募集中。続きは来週。

### 5)「新型インフルエンザについて」

〔お願い〕

職員より：

インフルエンザの診断を受けた方は自宅療養してインフルエンザにかかった旨電話連絡をいただけるようお願いいたします。

以上

### 4. 【今月の「駄洒落クイズ」】

言葉の魔術師『謎の男 Mr.Y』が出題する、今月の駄洒落クイズはこれだ！

暑い時は、<sup>はんそで</sup>半袖  
 寒いときは、<sup>ながそで</sup>長袖  
 音楽を聞くなら？

答えは来月号に掲載されます。

10月号の出題と答：

出題：巨乳の人がプロになりました どんな職種でしょう？

答：プログラマー

### 5. 【エロジ「心の詩」】

秘密  
 人にはだれにも話せないひみつ  
 がある  
 みんなかくしておきたい自分だけ  
 のひみつがある  
 今 私ば52さいになつた。  
 世の中のこと少しわかつてきたら  
 十代、二十代、若かつたころの  
 ひみつ、三十代、四代のひみつ  
 がだれにも話せないがとても  
 大切な思ひ出になつてゐること  
 に気がついた。人には話せないが  
 私の心のダンスにしまつておこう  
 ひみつ・ひみつ色々とある  
 人には話せないよダンスの中に

## 6. 【さんぽみち】～河田隆利エッセイ～



### 音楽の窓の向こうに風景が見える

【音楽の窓の向こうに風景が見える】と、上手い事を云ったのはジャズ評論家の青木誠さんだ。

なるほど、ボッサ・ノヴァを聴いて有名な美術館やランドマークを思い浮かべないし、ブラジルの歴史を学ぼうとは思わない。ましてやカリオカ（註\*1）の有名な顔なぞ滅多に思い出さないどころか素性さえも知らない。

このボッサ・ノヴァの音楽の窓の向こう側には、そこに暮らす人々の生活が生き活きと見え、哀歓のため息や愛の悩みが見えてくるからである。



カエターノ・ヴェローゾのククル・クク・パロマを聴いて、アルゼンチンの政治のあれこれを思い浮かべないように、アントニオ・カルロス・ジョビンやジョアン・ジルベルトの奏でる哀愁のギターや歌声から見えるのは、確かに恋人の眩しい笑みやメランコリーな後ろ姿であり、またその愛と哀しみである。

そう云った意味ではキューバのマンボや、カーボ・ヴェルデ（註\*2）のアフリカン・サウンドでもそうであろう。と云うよりも音楽全てに云える事だと思う。

また、【旅の醍醐味は迷子になる事だ】と云った、ウィム・ヴェンダースの言葉にも唸ってしまった。

ドイツのこの映画監督は小津や溝口や黒澤の作品を通して日本文化に<sup>はま</sup>埋り、お忍びで日本のあちこちを歩くのが大好きになっただらしい。特に奈良や京都や浅草を散策するのが殊の外大好きで、時には九州や北海道の温泉にぶらり旅を決め込む事もあったらしい。

ある日奈良を歩いていた同氏は気が付くと道に迷い、あたふたして地図と<sup>にら</sup>睨めっこしながら困っていた矢先、地元のお爺さん<sup>じい</sup>が近寄って来て、身振り手振りで一生懸命ディレクターを教えてくれたのだそうだ。

言っている意味や、どう行けば良いのかは大體解ったのだが、と云うよりも、<sup>ふうぼう</sup>風貌も違えば感性も違う、カタコトの日本語しか話せないこの異国人の私にわざわざ時間を割いて、一緒に問題を解決しようとしてくれているこの老人に感動し、同氏は老人の前で笑顔で地図を破り、観光もそっこのけで老人の云うままに付いて行き、家でお茶と漬け物をご馳走になっただらしい。



【この旅で、ランドマークの歴史的建物や文化遺産を知るには、その種の本を探せば良いと思った。行って、観て、写真を撮ったで終わる筈。それはそれで楽しいのだが、でもそういう旅行はまるで自分の足跡をファイルするかのようで、ここで何をしに来たのだらうと考えると虚しくなった。私はそれ以来、地図やガイドブックに頼るランドマーク探しの旅は捨て、我が街ベルリンのいつものカフェに行くのと同じ感覚で異国を旅するようになった。そして旅の醍醐味は迷子になる事だと確信した。そこには素晴らしい異次元ワールドが存在する・・・そう云った意味で、この老人に招かれた家は私にとって世界遺産かも知れない】と、同氏は後日語っている。

ヴェンダース氏の云う事の全てに賛同は出来ないが、私も概ね理解できる。

【旅をする】って事をよく考えて見ると、【そんなに特殊な状況じゃないなあ】と、前々から思っていたし、旅の目的によっても随分違うもんだが、ヴェンダース氏はたぶんある種の【緊張感】を楽しんでいたのかも知れないし、思いもかけぬ出会いや【本物のエキゾティズム】の感覚に酔ったのかも知れない。

先に記した青木さんの言葉も、音楽を通してある種の【エキゾティズム】や疑似生活状況のある時間の間体験する事により、ヴェンダース氏と同じランドマーク探しではない【緊張感】の旅を経験したのかも知れない。また、世界遺産はある機関が登録するのではなく、個人個人がそれぞれの世界遺産を持つ事なのかも知れないなあと思うのである。

世界遺産に登録されたからと云って、今まで関心も寄せなかった人々が列を作るほど押し寄せる行動は、その気持は理解できない事もないが、私はどうしてもある種の嫌悪感さえ感じられる事も否めないのだ。

A・ヘミングウェイのスペイン・アンダルシア地方、F・ショパンがジョルジュ・サンドと過ごしたイタリア・ノアンとマジョルカ島、D・トーマス（註\*3）のウェールズ・スウォンジー等々、個人的な世界遺産を私も早く見つけたいものだ。

註\*1・・・カリオカ

リオ市民の愛称

註\*2・・・カーボ・ヴェルデ

Cabo Verde. 西アフリカ沖にあるポルトガルの統治国。ノスタルジー溢れるサウンドでセザリオ・エヴォラが唄う【そよ風のソラーデ】がフランスで大ヒット。その後日本にも飛び火して 根強い人気がある。夏の午後3時以降のドライブでエヴォラの歌を聴くと、誰もが恋に落ちるといふ伝説まで生まれた。

註\*3・・・D・トーマス

Dylan Thomas 英国の詩人。代表作に【ミルクウッドの下で】他、叙情的な作風に国際的に人気も根強く、ボブ・ディランは感銘を受けこの人の名をとった。

## 7.【シリーズ 幻聴】

2009 年 1 月号からはじめた連載の続きです。

幻聴にさいなまれている方から、実況中継的に E-mail をいただきました。

「幻聴ってどういうものだろう?」「幻聴にさいなまれるとどのように苦しいの  
だろう?」「幻聴の苦しみをどのように理解したらよいのだろう?」「その脳内  
で発生する音声の様子とは?」

その答えは、この E-mail の中にみつけれられるかもしれません。

ご本人がおとなりさんへの掲載を承諾してくださったので、何回かに分けて掲  
載してみたいと思います。

幻聴の内容は人により様々のようですが、この方の幻聴による苦悩を是非共有  
してみてください。

みなさんの隣にも、このように苦しんでいる方がいるかもしれません。



2009 年 10 月 19 日 17:56 幻聴続き

やつらは誰を先にやろうか迷っているようです。全部とるためには誰を先にやったらいいのか?  
親か兄弟かはたまた私か?

私がお隣さんに掲載を許したことを怒っているようです。

真剣に怒っています。

奴らのたくらみが明るみになるのを恐れてことを起こせない状態です、今は。

でももうすぐこのことが本当になるかもしれません。

奴らは存在するのです。このことを知っているのは私だけです。

ですから社会のため人類のため掲載しなければなりません。

やったら逃げるそうです。

今は証拠がありません。告発するには証拠が必要です。

狙った獲物は逃がさないそうです。

今はもう開き直りに近い状態であればともいっていいとまで言っています。

0 9 1 0 . 1 9

掲載可

2009年10月19日 18:15 幻聴続き2

私は知らなくてもいいことまで知ってしまったようです。

でも悪は許せません。

このことを掲載することにより悪が少しでも少なくなればと思っています。

今も私を攻撃しています。超音波？電波？強くなってきました。

耳が痛くなってきました。

私に向けられて発射されています。

もうこの状態をやめないよとっています。

正体がばれてきたから制裁のつもりでしょう。

もう許さないとっています。

今すぐやるとしていますが、私はずいぶん待ちましたが、奴らは発覚を恐れて手を出していない状態です。

呼んで来い、呼んで来いともう何百回も聞きましたが、呼びに来たためしがありません。

発覚を恐れているのでしょうか。

覚えていると捨て台詞をはきました。

奴らは手下を使うようです。

今のところはこんな状態です、続きがあれば又書きます。

09.10.19

2009年10月19日 18:54 幻聴続き3

奴らに気づいた私は特異例かもしれません。

他の人は気づかぬまま病気として処理されてしまうのです。

あたら人生を棒に振ってしまうのです。

奴らは妄想を植え付けるのです。

現在本当に貰って来いと手下に命令しています。何を？

この記事を読んだ人も狙われる可能性が大きいです。

A先生も注意です。

頑張ろうとっています。

もう20年も準備してきたのだからいまさら諦められるかと言っています。

151も襲われるかもしれません。ドアを蹴破ってと言っています。

親分が出てきたからもう終わりだと言っています。

とりあえず又・・・

続きがあると思います。

2009年10月19日 19:30 幻聴続き4

お前なんか殺すのは簡単だと言っています。

殺せ！とも言っています。



やるからいいよ覚悟しておけとっています。

眠ったらやるとっています。でも奴らはうそを言ってこちらをかく乱させようともします。

絶対やるとっています。気に食わないとっています。

すぐに出ると命令しています手下に。

気づいていないとっています。やるなら今だと言っています。

馬鹿だよと言っています。

覚えていないとっています。

やったほうがいいよと女の人と言っています。

まず殴るだけだと言っています。こうなったら承知しないとっています。

その後本当にやる言っています。

続く・・・

私の場合特異例と書きましたが、やつらの話から特異例ではなく誰にでも幻聴を起こせることが判明しました。

やつらの手は幻聴を起こさせる（内容変換など）と妄想を植えつける、又言葉の引っ掛け（他の人に悪い印象を与える言葉）を思い起こさせることができるのです。

知らない人は自分がそう感じているのだと判断してしまいますが大間違いです。

長い間心の中で引っ掛けが起こされると本当だと信じ込んでしまいます。

奴らは私がやつらの手の内を暴く前に事を起こそうとしています。

たとえば家族の誰かが幻聴になるとか。

ただ人に幻聴を起こさせるのには時間がかかるので私からデータを集めているのです。

2009年10月20日 12:42 幻聴続き5かな

データが集まれば後は早いです。あっという間に精神障害者の烙印を押されます。

妄想もそうです。やつらが妄想を送り込んでいるのです。

本人はそんなこと知らないから自分が妄想していて病気なんだと誤ってしまいます。

それが奴らの手です。

私はいたって健康。ただ奴らに体調を狂わされているだけです。

今書いているのはやつらが言った言葉を書いているのです。妄想ではありません。

今まで知らなかったからここまで来てしまいました。知った今はやつらの企てを書いていかなければなりません。

このことを知るきっかけになったのはやつらの仲間を見てしまったからです。

それで私を亡き者にせんと必死になっているのです。

お隣さんに載せることでやつらの計画をつぶし、一人でも助けられたらと思い、掲載を頼んだのです。掲載可

2009年10月20日 16:42 奴らの手の内がわかりました

お会いしてすべてを話します。よろしく願います。

もうひどいやつらなんですから、  
2009年10月20日 18:36 やるそうです  
警告されました。暗くなってからやったほうが顔を見られないから夜にやるそうです。  
顔を見られたら始末しろと命令していました。  
さすがに電気のプロです、私のパソコンが最初からのとられていました。  
キーを押したときから変です。誤字が入力されてしまいます。  
私たち家族を丸裸にするそうです。  
誰が先か順序は関係ないとのこと。  
私はこのことを家族には言いません。家族が脅し取られるからです。  
私を働かせないばかりか、家族からむしりとるそうです。  
私が仕事をやめさせられたのは今回が二度目、いつも体調を狂わされてしまいます。  
時期はなるべく早く都合のいいときにやるそうです。  
やったらずらかるそうです。  
でも私は顔を知っているから始末されるでしょう。  
続く・・・

2009年10月22日 19:59 幻聴 09.10.22

幻聴ではないことが今日確信できました。  
今まで不思議だったことが今日、幻聴ではなく実際に聞こえる声だとわかりました。  
私が再発したとき、私の体をピンポイントで動く得体の知れない何かが、体全体を探っていたのです。  
足のつま先から髪の毛の先まで、言うまでもなく舌先まで、ピンポイントで探っているのです。  
それが日を追うにつれ脳の各部位を探查し始めました。  
脳がチクチク痛むのでおかしいと思っていたのです。それもいつも違う場所がチクチク。  
心臓はもちろんのこと肝臓、腎臓、盲腸、ほかの臓器を探していたのです。  
脳がチクチクするのはなぜかと考えていたところ、私の喜怒哀楽の脳の場所を探していたのが今日わかりました。  
この結果、喜怒哀楽、特に怒の部分を利用して何か事件を起こさせることが可能かもしれません。  
あと本能の部分がわからないそうです。3ヶ月猶予をくれるそうですが本当かどうかわかりません。  
私を殺してしまえばこのことを知っている人はいない、誰がやったか分からなくなるはずだと言いました。  
まず見せしめに弟をやるそうです。  
そして取ることに決めたそうです。家財道具など私が持っているすべてのものを。親兄弟はもちろんのことです。一切合財奪うとの事です。  
やつらは私一人に関わっているわけではありません。  
世間のもろもろの事件の原因に少なからず関わっているのかもしれない。

今も脳の部分がチクチクします。

奴らが使う手で私に試したのはのどの呼吸の弁を閉じさせることです。

脳に信号を送り閉じさせるのです。

不思議なのはなぜ今まで私を生かしておいたのか分かりません。

弁を閉じさせることはもう 5 , 6 年前 ( もっと前かもしれません ) に試したのです。

他の人に対してこの信号操作ができるのならば . . . 想像は難しくありません。

体調不良なぞ、いともたやすいことです。

どうやって脳の操作の信号を送るのかわかりません。

今、分かったことですが、私の思っていることを知る方法が分からず今まで時間をかけて解明作業をしていたのだと思います。

思考伝播だと思われていたことが実際起こっていたのです。ただ解明作業をしなければならなかっただけです。

解明作業ですが私が思ったことを言葉に出すことを利用して辞書のようなもの ( 簡単に言えば ) を作り解明する。

あの人たちの言葉がこちらに聞こえるのは分かりません。どうやってやるのか？

今はもう全部分かった、すでに分かっていたのでしょうか。

言葉の内容変換などで事件を起こさせてきたやつらですから。

あの人たちは頭がいいのでしょうか。凄く。

まだあるといっています。何があるのでしょうか？余裕すら感じます。

偶然の産物なのかもしれませんが。

私にも余裕が出てきました。覚悟ができました。

やる順序はやつらが決めることですからどうなるか分かりません。

続くかな～

つづく

---

## 8. 【ホーム・ページの開設のお知らせ】

ホーム・ページを開設しましたので、URL をご案内いたします。

まだ内容は充実していませんが、少しずつ改良していきたいと思います。

「おとなりさん」のバック・ナンバーもホーム・ページから御覧いただけます。

一般社団法人クレオソーレ:

<http://www.creosore.or.jp/>

すぎなみ 1 5 1 :

[http://www.creosore.or.jp/suginami151/suginami151\\_top.html](http://www.creosore.or.jp/suginami151/suginami151_top.html)

---

## 9. 【一美の密室】

さて、今月号も「一美の密室」で、あなたと私、この密室で楽しみましょうね。  
うふふふっ。



今日は「ショウガ」さんのお話。

学名は *Zingiber officinale* (ジンギベル) といいます。  
ミョウガさん (*Zingiber mioga*) と最も近い種類です。

紅ショウガ、酢漬け、寿司のガリ等に使われています。

ジンジャーと呼ばれているハーブは、*Hedychium coronarium* (ヘディキウム (花シュクシャ)) というショウガ科ヘディキウム属) で、少し離れた親戚です。

香辛料として使われるカルダモンさん、漢方でも使われるウコンも、ショウガと遠い親戚になります。

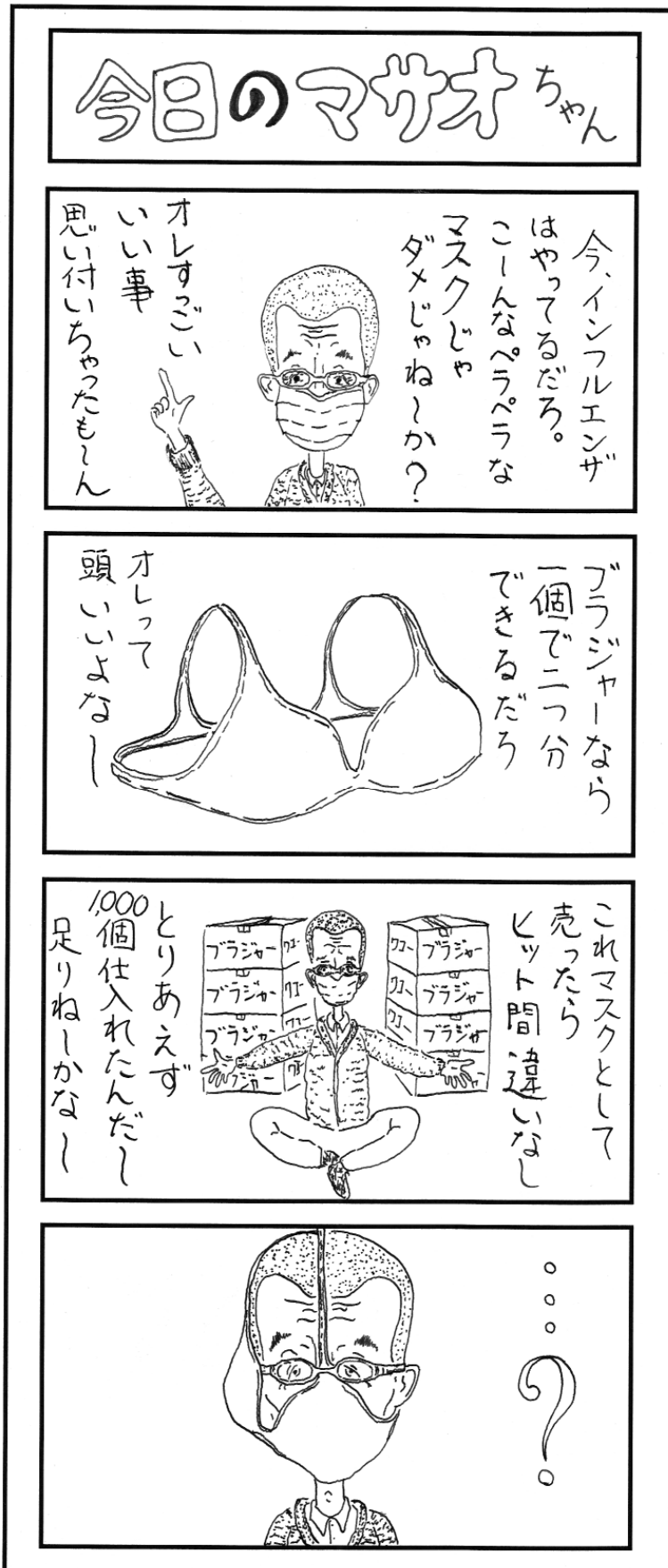
|                                       |                  |
|---------------------------------------|------------------|
| カルダモン ( <i>Elettaria cardamomum</i> ) | : スパイスのカルダモン     |
| ウコン ( <i>Curcuma longa</i> )          | : スパイスのターメリック    |
| キョウオウ ( <i>Curcuma aromatica</i> )    | : 漢方薬として使われるウコン  |
| 紫ウコン ( <i>Curcuma zedoaria</i> )      | : 漢方薬として使われるガジュツ |

ショウガは体を温める作用があって、少し寒いときに食べれば効果はあります。  
ショウガの茎を束ねてお風呂に入れるとショウガ風呂になります。  
冷蔵庫に入れると防臭効果があります。

今日はこのへんで。ではまた来月この一美の密室でお会いしましょう。

10. 【今月の4コマ漫画】

作：音成一郎



---

## 11. 【我ら西永福妄想族】～ 1 5 1 文芸部作品～

### 「道」

森重寿一

ひとはひとりでは生きてゆけない  
でも  
ひとはひとりで生きてゆく力を持たなければいけない

道よ  
次の誰かを連れて来てくれ

新しい風はさわやかだ  
きみのところにも吹け  
知らない明日へ誰も  
今日から道があるきだす  
たとえ打ちのめされていても  
ふさぎ込んでいても

友よ  
道が目の前に  
かなたへ曲がりくねる道を歩いている君よ  
すべて笑いとばして  
道をてくてく歩いてる

それでいいんだ  
誇りを捨てず  
恋が終わっても  
また出会いがある

道よ  
まぶしい笑顔を忘れずに  
まだ道は旅立ちです

## 12. 【ヨッチン文学】

### おやじ 『親父の話』

ヨッチン

その1 ある晩、おふくろとおやじ親父が話をしていた。

おふくろ：「本当に、パパは子供みたいだねえー！」

親父：「人間ってものは、歳をとると、子供にかえっていくんだ！」

おふくろ：「だったら、親の言う事、聞きなさいよ！」

親父：「今、ちょうど、反抗期に入ったところなんだ！」

その2 ある日の夕方、親父が帰宅して、おふくろに、開口一番、  
「今日は、大喧嘩げんかをしてきた！」と、興奮気味に話し出した。

その話とは、あるパン屋の2階が、喫茶店になっていて、パンを買った人が、そこでコーヒーをたのむと、パンも食べれる仕組みになっていたそうだ。

親父がパンを買い、店に入って、店員に「牛乳をくれ！」と注文。

店員が、おそる、おそる「コーヒーのみになっております！」と対応。

親父が「パンといったら牛乳じゃねえーか！！ おまえの指図は受けん！！」とキレて、店長を呼ぶの、呼ばないのとか言って、目茶苦茶になって帰ってきたみたいだった。

その3 おふくろが、<sup>ひざ</sup>膝が悪いので、その事を親父に話していた。

おふくろ：「今日は膝の<sup>ちりょう</sup>治療しに、病院に行ってきた。」

親 父：「先生は何て言ったんだ？」

おふくろ：「リハビリにプールでの水中歩行がいいと言ってたわ。」

親 父：「ふざけるな！ オレは、絶対、反対だ！」

おふくろ：「何を、そんなに怒ってるのよ！」

親 父：「それは、おまえの水着姿が見たいからだ！！

あのエロ<sup>じい</sup>爺！！」

### 13. 【テルーの法則】

<sup>ゼロ</sup>0 よりも大きい数は

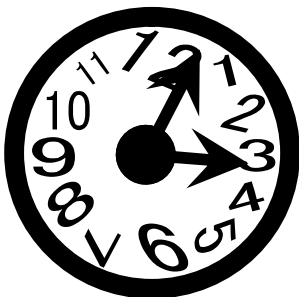
<sup>ゼロ</sup>0 未満になることはありえない。

ところが・・・

時計の世界では

0 分の前が 5 9 分だから

0 未満でも、0 より大きい数になるんだよね



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

テルー



## 14. 【茨城県のとある患者会の悩み】

先日、茨城県の T 村で患者会を運営している O さんという方から、すぎなみ 151 へ相談の電話がありました。

現在 T 村では、ある研究所に無料で提供していただいているスペースを使い、毎週日曜日の午前中に患者会と称する集まりを続けているようです。

O さんは 3 年ほど前から参加していますが、定着して参加している当事者メンバーは自分も含めて 3 名くらいだということです。

他には行政の方や保健センターの職員、薬剤師さんなど様々な専門職の方々も参加しているようです。

患者会では月に一回広報誌を発行していますが、40 部ほどの発行部数ということもあり、障害者団体定期刊行物として第三種郵便の認可を得ることができず、それにより印刷や郵送にかかる月に約 1 万円の費用を O さんが負担しているとのことでした。

O さんは以前杉並区に住んでいたことがあり、茨城県に移った後にもすぎなみ 151 に見学に来たことがあるようです。

そのときにはまだ「杉並友の会」が活動しており、O さんは「つらい時は「友の会通信」を読み、いつも励まされ何とか今までやってこれた。」と語っていました。

現在の悩みは今後の患者会の活動のことであり、具体的には・・・

- ・細く長く活動を続けていきたいが、メンバーがなかなか定着しない。
- ・「自分たちで何かやろう」という気持ちにならない。
- ・周囲から「物足りない」と言われる。
- ・広報誌を発行するための自己負担。
- ・外に出て来れない人たちにどのように働きかけ、支援をしていけば良いのかがわからない。個別訪問などを試みたが限界がある。

など、抱えている問題は様々で煮詰まっていたところ、「杉並友の会」のことを思い出し連絡をくださいました。

Oさんは、「どうやって当事者活動を継続してこれたのか」「地域で助け合いながら精神疾患を抱える人を支えていくにはどうしたらよいのか」という質問を投げかけてきました。

とても難しい質問ですが、以下、当時の「杉並友の会」に関わりがあり、本人も自身で立ち上げた自助グループを最近まで運営していたMさんからお話を伺いました。

私は月に一度、1～2時間「言いつぱなし聴きつぱなし」を中心とした自助グループを約9年間続けてきました。

その日のテーマを皆で決めたりしながら順番に話をしてもらう。話したくなければパスもできます。相手の話に意見を述べたり批判をせずただ聞き役になる。また、自分の話を無条件に聴いてくれる安心感の中で話す。その繰り返しを続けてきました。

もちろん、いつも順調だったわけではありません。病気と付き合いながら、体調の波に左右されながらの自助グループにピンチはつきものです。

0さんの悩みと同じで2～3人しか集まらなかったこと、皆のペースに合わせられずに何でも一人で決めてしまったこと、メンバーの自主性を引き出せずに自信を失くしたこともありました。

結果として、現在自助グループは活動休止状態ですが、私にとってはすべてが良い経験で自信につながりました。無駄なことは一つもなかったと思っています。

0さんの詳しい状況はわかりませんが、患者会や自助グループには周期的にキツイ時期があると思います。良いときも悪いときもあります。今は辛抱の時かもしれません。

いつか抜けられる、変わっていくことを信じて2人でも3人でもいいからとにかく集まって続けることが大切だと思います。それを越えられたときに大きな自信につながると思います。

そのためにはまず、今の0さんの気持ちを皆に伝えて話し合うことが大切です。今の現実を受け入れて、これからどうしていくのが良いのか皆で考えてみてはどうでしょうか。

その結果、たとえ続けていけなくなったとしても、それが皆で話し合っただけなら悲観することはありません。そこからまた新しい出会いがあり、新しいグループができていくかもしれません。

肝心なのは、0さんを含めたメンバーの皆さんが社会参加できる場所があるということ、また、自分の居場所があるということではないでしょうか。

それが0さんのいる「患者会」でもいいし、支援センターでもいいと思います。行ける場所は多ければ多いほどいいと思います。

規模は小さくても、そこに「在る」ということが当事者の方々の支えになっていると信じています。

参考になるかわかりませんが、私なりの考えを述べさせていただきました。

陰ながらですが応援しています。

## 15. 【「すぎなみ 1 5 1」スタイル】

5 月号から、障害者自立支援法の事業体系と「すぎなみ 1 5 1」について連載していました。

法律施行から 3 年も経ち、遅ればせながら障害者自立支援法の中での「すぎなみ 1 5 1」の在り方について検討を始めていましたが、2009 年 8 月 30 日の衆議院議員選挙で、障害者自立支援法の廃案を唱える民主党が政権をとることになりました。

そうは言っても、すぐに障害者自立支援法がなくなるわけではありません。代替の制度ができるまでの間は障害者自立支援法が続いていきます。

ですから、現行の障害者自立支援法の中で、緊急に修正が必要な点は、引き続き障害者自立支援法の改正や緊急対策を求めてゆく必要があるでしょう。

同時に、今後民主党が策定してゆくであろう障害者自立支援法に代わる制度作りに、できるだけ多くの声を反映させてゆく努力をしなければなりません。

そんなわけで・・・

前号では、民主党の「障がい者政策プロジェクトチーム」が策定した 2009 年 4 月 8 日付「障がい者制度改革について～政権交代で実現する真の共生社会～」と題された報告書をご紹介します。

今月号では、「社会参加のあり方」について考えてみたいと思います。

ひとことに社会参加といっても、立場によって様々であろうと思いますが、ここでは、体に不具合があって雇用されることが困難である方々の社会参加に絞って考えてみたいと思います。

体の不具合の有無にかかわらず、一般的に営利企業は、現在の日本の経済体制においては営利を追求するために経済効率を求め、被雇用者は雇用者が求める経済効率を達成する努力を求められます。

企業経営の立場から見れば、企業の採算バランスがとれるように雇用が行われ、その労働力により最大限の経済効果を生むように企業経営されるのが常です。

したがって、Aという会社に勤めたいと希望する人全員を、この会社が雇用することは不可能であるのが現実です。

営利企業では、被雇用者に対して人件費というコストをかけ、その被雇用者が生産活動や物品あるいはサービスの販売活動を行うことで、収益を得ることができ、その収益からまた人件費というコストをかけることができます。

雇用者である経営者の経営センスや市場動向の影響という要素も一面ではありますが、こうした要素を除けば、被雇用者の生産効率が高ければ収益や販売数が拡大し、生産や販売が拡大すれば人手もかかってくるので雇用を拡大し対応できる体制をとってゆくことも考えられます。逆に、生産効率が低ければ収益は減少縮小し、人件費を圧縮するために、人件費単価を圧縮するか被雇用者の数を減らして調整することがおこなわれます。

もちろん、被雇用者の数を減らさずに（あるいは雇用機会を増やすことで雇用枠を拡大して）人件費単価を圧縮するための手段として、ワークシェアリングという考え方もありますが、被雇用者が生活を維持するには一定規模の収入が必要なので、これを実施するには雇用の機会をお互いが分かち合う被雇用者

自身の理解と、ワークシェアリングによる所得水準でも家計を維持できる社会保障制度が国全体で整っていることが前提条件になるのではないかと思います。

昨今の「就職氷河期」と言われる大学新卒者の採用状況や実失業率の増加にもみられるように、営利企業の景気動向が雇用環境に大きな影響を与えることは、こうした営利活動と雇用の構図を見るまでもなく、誰もが実感できることでしょう。

さて、こうした厳しい現実を踏まえた上で、話を「社会参加」に戻してゆきたいと思います。

一般的には、学校を卒業すると何らかの仕事に就くこととなります。この現象を「社会人になる」と表現したりします。仕事に就いている人は、勤務日は職場に行き仕事をします。しかし、そうしたくてもできない場合があります。その一つが、ここで取り上げる、体に不具合があって雇用されることが困難な状況にある状況です。

もちろん、体に不具合があるからといって雇用されることが困難でない人もいるわけですが、ここでは社会現象としての「状況」について考察いたします。

体に不具合があって雇用されることが困難な状況は、生まれたときから何らかの体の不具合があり雇用されることが困難な状況もあるでしょうし、学生の時期に何らかの体の不具合が生じて雇用されることが困難な状況が生じることもあるでしょう。あるいは、一度は雇用されたものの、体の不具合が生じたことで雇用され続けることが困難な状況になる場合もあると思われます。

なぜ雇用されることが困難な状況になるのでしょうか。それは先に示したような営利企業の経営者が求める経済効率と無関係ではないと考えられます。その意味では、体に不具合が有ろうが無かろうが、経済効率との兼ね合いで雇用されることが困難な状況はいくらでもあることは、誰でもが経験的にわかっていることです。しかし、ここでは、あくまで体に不具合があることによって、雇用されることが困難な状況について考えてみたいと思います。

ここであえて、体に不具合があって雇用されることが困難な状況を、体に不具合は無いけれども雇用されることが困難な状況と分離して検討する理由は、前者と後者には明らかな違いがあると考えられるからです。

その違いとは、前者は、本人の努力では改善できない原因を自分自身の体に有しており、その原因を体から分離することが不可能であるという意味で根本的な違いがあります。

もちろん、後者の場合も、様々な状況が考えられ、その中でも、原因を体から分離することが不可能な要素があるとすれば、仕事をする能力の優劣が固体の潜在的能力差に起因し、本人の努力では克服しきれない社会生活上の障壁となる可能性を排除するものではありませんが、明確に体の不具合に起因することと、仕事をする能力の優劣に起因することは分けて検討しなければならないでしょう。

なぜなら、仕事をする能力の優劣の問題は、体に不具合がある当事者の中においても生じるからであり、すなわち、雇用市場における被雇用者の仕事をする能力の優劣の問題は、極めて相対的な問題であると考えられ、これは、全ての人に共通して発生する状況であると考えられるからです。

体に不具合があることによって雇用されることが困難な状況でない方にとっては、何らかの仕事をしていることが「当たり前」の状態だと思われるでしょうし、「自分は雇用されることが困難な状況とは無関係だ」と思われるかもしれません。

しかし、実は、人間が人間であるうちは、社会の構成員全員が、体の不具合があることによって雇用されることが困難な状況になる可能性を潜在的にもっているということもまた現実です。ですから、本来、社会の全ての構成員が、自分や自分の家族もこうした状況におかれる可能性があることを前提とした社会を作る努力をしてゆく必要があるのではないかと思います。

体に不具合があることによって雇用されることが困難な状況は、人が社会生活を送る上で2つの問題を生むと考えられます。

1つ目は、生活を維持するための収入がなくなること。2つ目は、仕事をするという「社会参加の形態」をとることができなくなるということです。

1つ目については、生活保護の制度により最低限の生活の保障が用意されています。あるいは、障害年金の受給資格のある方は、生活費の一部を障害年金でまかなうことができるような制度があります。もっとも、これらの制度内容と水準が充分であるか否かという議論はありますが、ここでは割愛させていただきます。

それでは、2つ目の、仕事をするという「社会参加の形態」をとることができなくなるということは、どのような状況なのでしょう。

その事を考える前に、私達が頻繁にそして無意識に使っている「社会参加」とはそもそも何でしょうか。



諸説あるとは思いますが、私は次のように整理したいと思います。

まず、「社会」とは「人の集合である」と定義することにします。

「社会」そのものの定義から、広い意味では、どのような社会的な立場にあっても、全ての人は漏れなく社会参加をしていると必然的に位置付ける事ができます。言い方を変えれば、社会の構成員であることが社会参加をしている状態であると言えます。その意味では、全ての人は常に社会参加をしているということになります。

狭い意味では、「能動的に人の集合体に係わっている状態」であると解釈できます。例えば、企業に雇用されて仕事をしている、家族の一員である、学校に通っていてクラスの一員である、仕事はしていないけれどテニス教室のメンバーとして参加している、ボランティアとして街の美化運動に参加している、マンションの管理組合の運営に参加している等々、その状態は列挙し切れません。逆に言えば、仕事をするという「社会参加の形態」も、それ以外の「社会参加の形態」も、共通している要素は「能動的に人の集合体に係わっている状態」であるということではないかと思うのです。

では、先の設問に戻って、『仕事をするという「社会参加の形態」をとることができなくなるということは、どのような状況』なのかというと、「職場」が能動的に人の集合体に係わる対象でなくなる状況であるということになります。そして、その原因は現在の経済体制に由来するということになるわけです。

そうなると、体に不具合があることにより雇用されることが困難な状況にある当事者はどうしたら良いのでしょうか。

人が「社会参加」をすることが必然であるとするならば、そういう状況にある当事者に合った別の「社会参加の形態」を社会の中に用意する必要があるということではないかと考えることができます。その「社会参加の形態」の一つが、実はこれまで草の根的に創られてきた「共同作業所」なのではないかと私は考えています。こうしてみると、これが「共同作業所」の本質的な社会的位置付けであり、そして、今後も多様な「社会参加の形態」が作られてゆくことが、人が社会で生活することを支える上でとても大切なのではないかと考えるのです。こうしたことから考えても、「すぎなみ151」もまた当事者にとって「社会参加の形態」の一つであると言えるでしょう。

全ての「社会参加の形態」に優劣などは無いはずである、そう私は考えています。仕事をするという「社会参加の形態」も、それ以外の「社会参加の形態」も、参加する人にとっては「社会参加の形態」の価値は等しいはずです。仕事をするという「社会参加の形態」が重視されるのは、あくまでそれによる経済的な効果が重視されているのであって、この「社会参加の形態」のそれ以外の要素では、他の「社会参加の形態」と等価であるという点を見失わないようにしたいものです。

さて、「すぎなみ151」は「社会参加」すなわち「能動的に人の集合体に係わる」「形態」の一つであるということを見てきました。

実はこの「能動的に人の集合体に係わる」という「社会参加」の定義は、これからの障害者福祉を構成してゆく上で非常に重要な要素なのではないかと私は考えています。

何故かという、障害者福祉を実施している事業所の内容は非常に多岐に渡っていて、多岐・多様な事業所での当事者の活動のあり方を尊重しつつ、どのような制度を構築して行くかを考える上で重要になってくるのではないかと考えるからです。

現在の障害者自立支援法においては、3障害（知的、身体、精神）を包括した制度作りを目指してはいても、現実に存在する3障害毎の特性の差を調整できるようにはなっていません。そして、人の体の不具合とは、3障害に入らないものもありますが、これに対応できていないという問題があります。そして、給付事業として定められている内容は就労支援偏重であり、多様な「社会参加の形態」を社会に準備する観点が欠落していると評価することができます。

こうした諸問題を、「社会参加」というテーマを制度の「基礎」と位置づけることで解決できないか考察してみたいと思います。

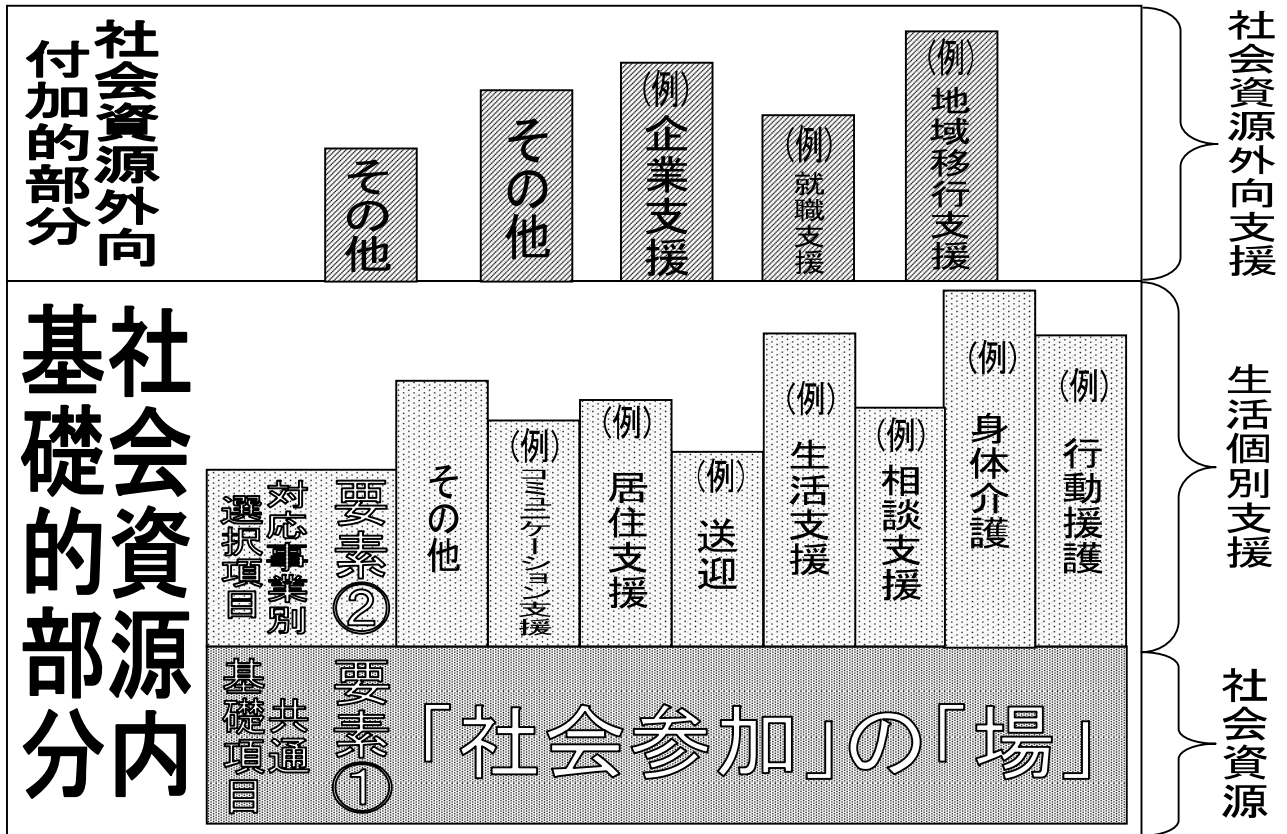
体の不具合により雇用されることが困難な状況にない人は、雇用される状況にあるということなので、職場という「形態」の「社会参加」をすることができます。

体の不具合により雇用されることが困難な状況にある人は、他の「社会参加の形態」を選択することができる社会環境が必要です。

基本が「社会参加」にあるとすると、その「場」や「機会」の維持が必要です。この「場」や「機会」を「社会資源」と位置付けることにします。

当然「社会参加」をする中で、体の不具合に合わせた対応が必要不可欠となります。ここには「社会参加」の「場」における生存あるいは生活に不可欠であるという性質のものが分類されるべきです。これを「個別支援」と位置付けることにします。

こうしたことを考えると、次のようなイメージの制度の構造が想起されます。



とりとめも無く考察してみましたが、まとめると次のようになります。

体に不具合があることで雇用されることが困難な状況が生じるのは、現在の経済・社会体制においては必然である；

全ての人は、体に不具合があることで雇用されることが困難な状況になる潜在的可能性を持っている；

そのため、社会の全ての構成員が、自分もこうした状況におかれる可能性があることを前提とした社会を作る努力をしてゆく必要がある；

体に不具合があることで雇用されることが困難な状況により、仕事をする職場が「社会参加」の「形態」の対象でなくなる；

の状況により、体に不具合があることで雇用されることが困難な状況にある当事者に合った別の「社会参加」の「形態」を社会に用意する必要がある；

草の根的に作られてきた「共同作業所」は、こうした「社会参加」の「形態」1つであると位置づけられ、「すぎなみ151」もまた、その1つであると位置づけることができ、これが活動の本質であると考えられる；

様々な「社会参加」の「形態」の共通項として「能動的に人の集合体に係わっている状態」であるという概念を抽出することができる；

「社会参加」とは「能動的に人の集合体に係わっている状態」であり、「社会参加」の全ての「形態」は、参加する人にとって等価である；

仕事をするという「社会参加」の「形態」が重視されるのは、あくまでそれによる経済的な効果が重視されているのであって、この「社会参加」の「形態」のそれ以外の要素では、他の「社会参加」の「形態」と等価であるはずである；

現行の障害者自立支援法の構造的な諸問題を、「社会参加」の「場」を「基礎」として位置づけた場合の制度構造の素描を描いてみた。

頭を絞って、あれこれと検討していますが、認識や理解が間違っていることもあるかもしれません。

お気づきの点がありましたら、ぜひご指摘いただければと思います。

つづく

## 16. 【花笠祭「えび丸くん」出店のご案内】

12月12日(日) サミット主催で大宮八幡宮にて行われる花笠祭に、今年も「えび丸くん」を出店いたします。みなさま、散歩がてら、お誘いあわせの上お出かけください。

「えび丸くん」は、タコ焼きを改良し、タコの代わりにムキエビと乾燥エビが入った、世界でも年に2回、「すぎなみ151」の屋台でしか食べられない杉並の名物です。

今回は今年最後の「えび丸くん」です。



## 17. 【最近の「すぎなみ151」の様子】

最近、「すぎなみ151」に足を運ぶ方が少なくなった気がします。人数が多い日と少ない日の差が激しくなってきました。

11月は、少ない日は14人、多い日は26人でした。平均は予定数が23人なのに対し、実績では約20人でした。

補助金収入が予定より減ってしまうな～。

10月に、台風18号や20号が近づいた週は、1週間単位で静かな日が続いていました。

そんな日が多かったこともあり、毎日10時からやっている昼食作りのミーティングの時間は特に集まりが悪く、昼食作りをしない習慣がついてしまったようです。

そんな名残で、11月に入ってから、昼食作りができそうな人数がいても、昼食作りをやるかやらないかを、多数決で決めるようになってしまいました。それで、結構「作りたくない」という選択肢に手をあげる人が多いような日が増えたんですよね。

ところが、ある日面白いことに気が付きました。「作りたくない」という選択肢に手を挙げる人の中には、もともと昼までには帰ったり出かけたりする予定がある人や、元々「すぎなみ151」の昼食を食べないと決めている人たちが「作りたくない」に手を挙げていたんですよ。

あ～ん、それはないじゃない。ということで、その日、昼食作りをして食べたい人だけグループを作って、そのグループで自分達で作れるメニューを決めて昼食を作ることにしました。

昼食作りをしたくないとか、「すぎなみ151」の昼食を食べない人たちは、昼食作りグループが打ち合わせをやっている間、のんびりしています。

1つの空間に人数が多くなってくると、全体で一つのことをまとまってやるのが難しくなってくるんだな～と最近実感します。

特に、「すぎなみ151」は一人ひとり利用の仕方がまちまちなので、特にこの規模で1つのグループとして活動するのは限界があるようです。

5人くらいが1ユニットで活動できるような工夫が今後必要になってくるかもしれません。

参加する人にとって、少人数で活動できる環境も、社会参加の形態として大切なかもということが、実証的に判るようになった今日この頃です。他方、いつも少人数で活動している方が、「野口体操」のイベントで色々な事業所の人たちと一緒に「野口体操」をやって交流したとき、「大勢と一緒にできて楽しかった。」と本当に楽しそうに言っていたことを思い出したのですが、いつも少人数で活動するというのも、それはそれで悩みがあるんだな～と思いました。

## 18. 【12月の予定】

空白の欄は、平常通りの活動が予定されています。

活動予定・日程は変更されることがありますので、ご了承ください。

### 2009年12月

| 日                     | 月                  | 火                  | 水                                                                                                       | 木            | 金  | 土                           |
|-----------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----|-----------------------------|
| 休                     |                    | 1                  | 2                                                                                                       | 3            | 4  | 5<br>休                      |
| 6<br>休                | 7                  | 8                  | 9                                                                                                       | 10           | 11 | 12<br>花笠祭<br>えび丸くん<br>@大宮八幡 |
| 13<br>休               | 14                 | 15                 | 16<br>ソフト・<br>バレーボール<br>合同練習<br>@中部センター                                                                 | 17           | 18 | 19<br>休                     |
| 20<br>休               | 21                 | 22<br>床の<br>ワックスがけ | 23<br>休<br>天皇誕生日<br> | 24<br>クリスマス会 | 25 | 26<br>合同望年会<br>@オブリガード      |
| 27<br>休               | 28<br>2009年<br>最終日 | 29<br>休            | 30<br>休                                                                                                 | 31<br>休      |    |                             |
| 年明け2010年1月は、6日から開きます。 |                    |                    |                                                                                                         |              |    |                             |

～ 編集者のつぶやき～

あっという間に師走です。寒くなりました。  
「こどもは数の子、おとなはキノコ」  
もういくつ寝るとお正月。数の子よりも  
栗きんとんが楽しみです。

創刊：2008年4月

編集・発行者：すぎなみ 1 5 1

〒168-0064

東京都杉並区永福 4-19-4 安藤ビル 2-C

Tel.: 03-3327-9225 FAX: 03-6666-8560

E-mail: otonarisan@creosore.or.jp